



創英の風

2020年夏号
(第19号)

2020年8月27日発行
発行人：田中 浩之(図書館長)
編集人：図書・研究委員会

教職員からのおすすめ本



看護学部 村上亜紀先生
『木を見る西洋人 森を見る東洋人
—思考の違いはいかにして生まれるか』

リチャード・E・ニスベット/著 村本由紀子/訳
出版社名 ダイヤモンド社
出版年月 2004年6月

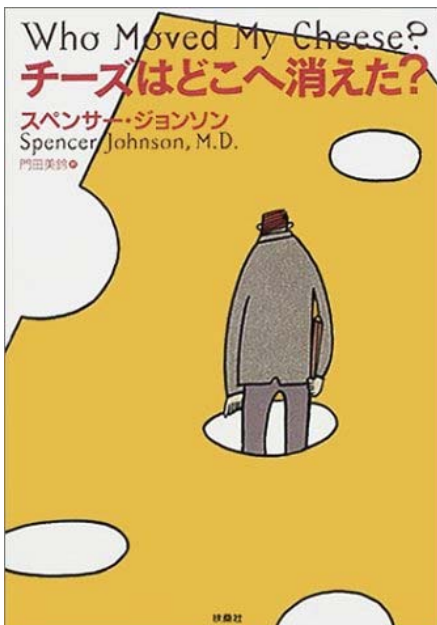
東洋人と西洋人の心や思考のかたちが文化によっていかに違うか、その違いはなぜ生じるのか、“世界についての考え方は根本的にひとつである”とする認知科学を大前提に科学的に解明しています。

異なる文化の人々のものの考え方について学ぶことは、自分自身のもの見かたや考え方を向上させることにつながるはずです。

読むたびに本書から多くの驚きと発見を得ることができますので、ぜひ一読頂きたいおすすめの一冊です。

看護学部 大久保昭宏先生
『チーズはどこへ消えた?』

スペンサー・ジョンソン/著 門田美鈴/訳
出版社名 扶桑社
出版年月 2000年11月



この本は、迷路の中で、チーズを探しながら暮らしている、小人のホーとヘムの物語です。彼らはある時、迷路の中でたくさんのチーズがある場所を発見しました。そこで2人は、毎日チーズを食べながら自堕落な生活をしていました。しかしある時、チーズがなくなりました。2人はショックを受けましたが、「待っていればチーズが手に入るだろう。迷路を探すのは危険だ」と行動することを諦めました。しかし、しばらく経って、ホーは【新しいチーズを探しに行く】決断をしました。

その一方でヘムは【ここに残る】決断をしました。

さて、2人の運命はどうなるのでしょうか?

この物語は、人生の暗喩です。

チーズとは → あなたが人生で求めるもの
迷路とは → あなたの人生において困難なこと
になります。

この本は、きっと、皆さんに新しい何かを教えてくれることでしょう。ページ数は少ないので、本が苦手な方も、是非手に取って読んでみてくださいね。

教職員からのおすすめ本



看護学部 原田直子先生

『透明なゆりかご』

～産婦人科医院 看護師見習い日記』

1巻～8巻

沖田×華/著

出版社名 講談社(KC KISS)

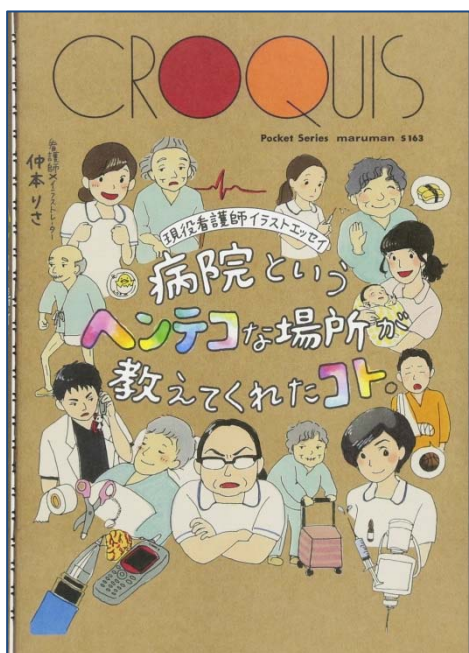
出版年月 2015年5月～

高校3年生の夏、衛生看護科に通う作者は母親の勧めで地元の産婦人科クリニックでアルバイトをはじめます。この時の経験を漫画にされた作品です。2018年にはドラマ化されましたので、ご存知の方も多くいらっしゃいますでしょうか？

妊娠中絶、未受診妊婦、合併症妊婦、性虐待、余命短い先天性疾患の新生児、周産期死亡、不妊など…性と生、生と死が交錯する現場。1つとして同じ体験はない、1人1人の大切なストーリーを、さまざまな女性や家族の思いと純粋な作者の視点を通して丁寧に描かれています。

当時の作者は学生ではありますが、学生であるからこそ見えるもの、感じ取れるものがあり、作者だからできた看護を实践されていたのだと思います。

ぜひ学生の皆さんに読んでいただきたいです。まだ読まれたことがない方もぜひ！周産期の世界を覗いてみてください。



看護学部 那須実千代先生

『病院というヘンテコな場所が教えてくれたコト』

仲本りさ/著

出版社名 いろは出版

出版年月 2018年5月

「病院というヘンテコな場所が教えてくれたコト」は、現役看護師である著者が看護師1～2年目の時の体験をイラストエッセイにしたものです。

著者はSNSでも発信しているので、ご存知の方もいらっしゃるかもしれません。

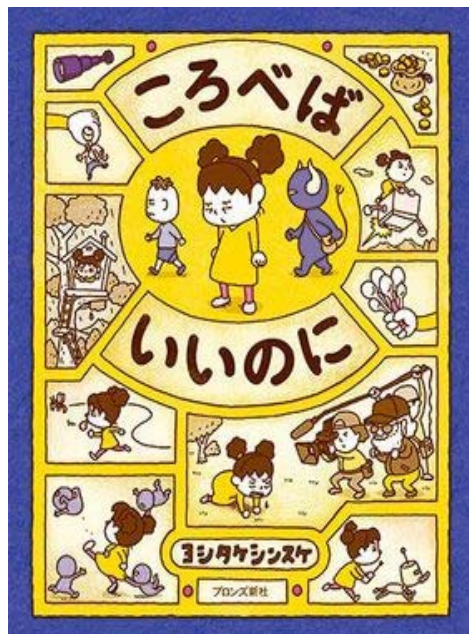
この本は、「病院と人と死」について、温かみのあるイラストと言葉で描かれています。

すぐに読めるボリュームですが、読み進めるうちに同じような患者さんがいたなあと、登場人物を自分が以前かかわった患者さんやご家族に重ねるようになり感慨深くなりました。

看護師なら、著者と同じように死を目の前にした患者さんを悩みながらケアした経験がある方は多いと思います。学生のみなさんは大変だと感じるかもしれませんが、看護師は素敵な仕事なんだと思える結末です。

そして、勉強で疲れた時にこの本を読むと、「明日も頑張ろう!」と思えるはずですので、ぜひ手に取ってみてください。

教職員からのおすすめ本



こども教育学部 溝口武史先生
『ころべばいいのに』

ヨシタケシンスケ/著
出版社名 ブロンズ新社
出版年月 2019年6月

主人公の女の子が下校途中、道に転がっている石をみて「わたしの嫌いな人は、石につまずいてころべばいいのに」という場面から、この絵本は始まります。

身近にいる子どもがこのようなことを言ったとき、みなさんはどう答えますか？

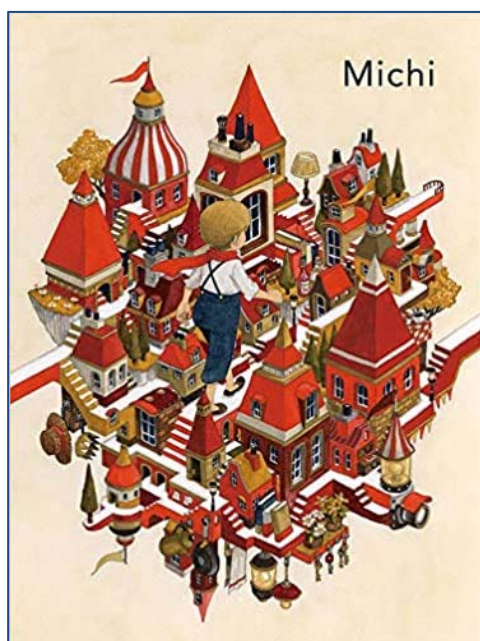
人それぞれにどうしても嫌いな人はいるでしょうし、嫌いなものごとや嫌な目にあうことはあるでしょう。そこをあえて否定せず、自分自身の気持ちのやり過ごし方を様々な発想で乗り切っていくとする主人公の姿に、微笑ましく思うことでしょう。モヤモヤした気持ちの時に読んで見ると、重たかった心が軽くなるかもしれません。

著者ヨシタケさんの「発想えほん」シリーズ。

他にも「このあとどうしちゃおう」「りんごかもしれない」「わたしのわごむはわたさない」「あるかしら書店」など。是非合わせて読んでみてはいかがでしょう。

最後に著者からのコメントを載せておきます。

「私は何か嫌な気持ちになった時に、誰かにすぐ相談するタイプの子どもではありませんでした。でも、自分の中にあるものだけで「とりあえずの答え」を組み立てることはできるはず。そのことを、表現しなかったのです」



図書館 司書 高橋礼子さん
『Michi michi』

Junaida/著
出版社名 福音館書店
出版年月 2018年11月

男の子と女の子が別々に旅をして、やがてふたりが出会う――ただそれだけのおはなし。

この本は両表紙になっていて、片方から開くと男の子と猫が、もう片方から開くと女の子と犬がそれぞれ旅をしています。とても不思議で美しい町を、ふたりはどこまでも続く真っ白な道をたどって行きます。

魅力的な世界が、ページをめくるごとに驚かせてくれます。町のどこかにいるふたりを探すことも楽しいですが、住人の日々の暮らしの音や、子どもたちの楽しく遊ぶ声までも、耳をすますと聞こえてきそうです。

いつかどこかで見たことあるような、でもどこにもない町。そんな未知の風景の中を、ふたりと一緒に歩いているような気分になります。

心に残る1冊となったらうれしいです。



図書館からのお知らせ

図書館では、新型コロナウイルス感染症防止のため、以下の対策を行っております。

館内の消毒



館内の換気



マスク着用



接触機会を減らすため、返却本は図書館入口のブックポストへ入れてください。

展示コーナー歳時記

7～9月

新型コロナウイルス感染症対策
ウイルス・感染症について



内容：

新型コロナウイルスについて書かれている雑誌や感染症についての図書などを集めました。雑誌には新しい情報が載っています。是非ご利用ください。



図書館開館予定

2020年8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2020年9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

10:00～17:00
 8:30～20:00
 10:00～20:00
 休館日

開館日・開館時間は変更になる可能性があります。その際は、掲示等にてご案内いたします。